

仙石騷動一件

リ5
15683



<2019-10>



大蔵持時侯之末節...
五万八千六百...
文代...
戊午五月...
...

...

[illegible][illegible]

せんごくそうどう 仙石騒動 せんごく
さうどう
江戸時代の主家横領の陰謀に係る御家騒動の一つである。天保（一八三〇—四三）のころ、但馬出石藩では、家老の仙石左京が主家の支流として、権勢並ぶものなく、藩政をもっぱらにした。たまたま藩主仙石美濃守政美が没したが嗣子がなかったため、老臣が相談して四歳になる政美の弟道之助を継嗣とした。左京はその子小太郎を立てて道之助に替えようとして政美の父で隠居していた久道に媚び、反対者である老臣荒木玄蕃・生駒主計・酒匂清兵衛・原市郎右衛門などを圧迫し、あるいはその職を奪い、あるいはその禄を削って放逐した。また小太郎の妻の実家の縁によって、老中松平康任に昵近しその権威を背景として主家篡奪を実現し

ようとした。ときに藩士神谷転が、左京の隠謀を勝手役河野瀬兵衛に告げ、事が露われんとしたので、左京は河野を禁獄して、これを死罪に処し、さらに神谷を捕えようとした。身の危険を知った神谷は出奔して、下総小金一月寺の虚無僧となり、名を友鷲と改めたが、左京の依頼を受けた江戸町奉行筒井伊賀守に捕えられた。ときに一月寺番所役僧の愛宕が、友鷲が左京に迫害された経緯を寺社奉行脇坂安童に訴えたため、仙石家内部の紛争は表面化して、幕府の知るところとなった。幕府は脇坂およびその輩下の川路聖謨をして、左京一味を召喚取調べさせたところ、罪状が明白となったので、一八三五（天保六）年一月、それぞれ処罰を行った。すなわち左京および用人宇野甚助・年寄岩田静馬は死罪、左京の三子は遠島、仙石道之助は出石五万八千石を三万石に削られて閉門、松平康任は隠居謹慎、筒井伊賀守は御目通差控となつて一件が落着いた。（原田 伸彦）



